

日本のスロットマシンの変遷

Transition of slot machine of Japan

1J01C057-7 小野一樹

指導教員 主査 寒川恒夫 先生 副査 中村好男 先生

序章

スロットマシンがこの世に生を受けて 100 余年。遠くアメリカの地で産声を上げたスロットマシンは、パチスロとして今や日本の文化の一つにまで発展するに至った。そこに至るまでの道のりは決して、平坦なものではなく、パチスロの歴史は常に闘争の時代であったと言える。その影には常に名機と呼ばれたスロットマシンがあった。本論文は名機と呼ばれ、人々に愛され続けたパチスロに焦点を置き、風俗営業法、メーカー、ホール、プレイヤーなど多角的な視点からのアプローチを試み、そこから見えてくる当時の時代背景などを交えながら、日本のスロットマシン、パチスロの歴史を紐解いてゆく。

第一章

どのような世界にも必ず専門用語というものが存在する。パチスロも例外ではなく、むしろパチスロに使われている用語は、決まった定義のない、俗称のような言葉が多く、パチスロを遊戯した事のない人にとっては非常に難解である。その為、共通な言語に置き換える事も非常に難しく、本論文を語る上で、専門的なパチスロ用語の解説は必要不可欠である。本章では、後に続く論文をスムーズに理解する上でも、出来るだけ共通な言語を用い、単に語意だけでなく、言語の由来などにも触れながら噛み砕いて説明をする事にする。

第二章

遠くアメリカの地で誕生したスロットマシンが海を渡り、日本のパチスロとして変貌するに至るまでは、決して楽な道ではなかった。そこには常に法律という壁が存在し、また、スロットマシンは、ギャンブルマシンという呪縛からも抜け出せずにいた。本章では、東京オリンピックのその年、日本のスロットマシンとしてデビューするその日までの辛く険しい道のりを、当時のメーカーの視点からアプローチする事によって見えてくる先駆者達の並々ならぬ努力と苦勞を写し出しながら考察してゆく。

第三章

スロットマシンの歴史は、ギャンブルという枠組みに存在しているためか、常に法律との戦いを余儀なくされた。メーカー側のノウハウもなく、法律も粗雑なものであった 1 号機時代。メーカーごとの個性を競いあった 2 号機時代。違法プログラムとの闘争であった 3 号機時代。苦難の時代を乗り越え、最も隆盛を誇った 4 号機時代。先行き不安と揶揄されながらもメーカーの努力が垣間見れる 5 号機時代など、本章は、回胴式遊技機として法律が制定されてから、現在のパチスロに至るまでの過程を、風俗営業法という視点からアプローチする事により見えてくる、メーカーと法律との闘争を理解しながら考察してゆく。

第四章

いつの時代も常に名機と呼ばれたスロットマシンが存在していた。それらは、時代の流れを作り、流れが歴史を育んだ。歴史を理解するという事は、時代、時代で活躍した名機を知る事と同義である。本章では、実際に名機と呼ばれたマシンの中でも、特に、パチスロの歴史において革命的、またはターニングポイント足りえると思われるマシンをピックアップし、プレイヤーの視点から名機を分析する事によって映し出される、時代の流れや風潮などを考察してゆく。

第五章

スロットマシンの歴史は、まさに闘争の歴史であった事が再確認された。けれども当初の見解と違うのは、その闘争の果てに今のパチスロが築かれているという点だろう。その闘争は必要不可欠であったものであり、闘争なくして現在のパチスロは無いと断言できるであろう。これからのパチスロの歴史においてもまた、闘争は最も重要な要素の一つであり、法律、メーカー、プレイヤー、ホールそれぞれが、さながら織物のように絡み合い歴史を作っていく事でしょう。